

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

平成22年 学校教育だより

September 9 第306号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711 (内線622)



水谷中 2年生 鎌倉遠足 ～鶴岡八幡宮にて～

写真提供／水谷中学校

晴れている日

東中学校 一年

鈴木寅靖

毎日一緒にいても、
気づかないことってある。

ぼくが、四年のある日気づいたのは、
お兄ちゃんの元気がなくなることに、

不思議だな、なぜだろう。

お兄ちゃんに聞いてみたら、

「雨の日だから……。」

雨の日だと外で遊べないし、

落ちつかない。

ぼくは、外で元気に遊んでいる、

お兄ちゃんが大好きなんだ。

お兄ちゃんが元気だと、安心できる。

いつも一緒にいて気づかないことの中に、
大切なことがある。

個に応じた食育の実践

「食育」というとどんなことを思い浮かべるでしょうか？
 「地場産物の活用」、「料理教室」、「味覚教室」など様々な答えがあると思いますが、学校における食育は六つの目標を指し、次の観点から、食に関する指導を行っています。

- 一、食事の重要性
- 二、心身の健康
- 三、食品を選択する能力
- 四、感謝の心
- 五、社会性
- 六、食文化

「食育」は特定の教科で行うのではなく、学校の教育活動全体を通して行うことに大きな意義があります。

本校では『食に関する全体計画』を作成し、給食の時間を中心に様々な活動を通して、児童生徒の「生きる力」をばぐくんでいきます。

はぐくむ食育

指導者 富士見特別支援学校 栄養教諭 島袋 靖代

食に関する指導の取組

① 朝の会での献立発表

本校の献立表は、すべての児童生徒にとってわかりやすいように、絵を中心とした献立表です。その献立表を一日ごとにA4一枚のサイズに拡大し、各クラスの担当児童生徒が、事務室に取りに来て、朝の会で献立発表する活動を行っています。

② 交流給食

一月に給食感謝集会と給食調理員との交流給食を実施しています。給食感謝集会では、調理員から給食作りの工夫や

特別支援教育

なかよし学級

鶴瀬小学校教諭 川口 広繁



三名の子どもたちとは少しタイプの違うA君とBさんが、今年新しい仲間になった。ある日、A君が給食を食べながら寝てしまった。するとBさんが自分のロッカーから上着を持ち出し、A君の背中にそっとかけてあげた。また、通常学級の二年生が泣いているのを見て、「保健室に行こう」と連れて行く姿もあった。支

援を必要とする子の何気ない仕草に心が動く。

一方、A君は人懐こく、誰にでも抱きつき、笑顔を振りまく子である。ところが、関わりを苦手とする子どもにとっては刺激が強すぎてか、毎日が大騒ぎの連続である。仲を取り持つ大人は、目配りの日々となる。

A君に抱きつかれると、「もういやだ」と言って教室を

③ 給食を活用した授業

「実物の食材の感触や匂いを感じる」「給食で使われている食材への興味関心を高める」ことをねらいとして、給食で使用する食材(そら豆、グリーンピース、とうもろこし)のさや取りや皮むきを授業で行いました。



大変さを感じた後、実際の調理器具を使った給食の調理体験を行いました。初めてさわる大きな調理器具に、児童生徒は興味を持ち、釜に見立てたボール入りのタライを一生懸命かき混ぜていました。



わっ！！
コーンだ。



飛び出す子もいたが、最近我慢する力をつけてきた。一人でゲームを手放さなかった子は、A君の貸して攻撃に、いつしか半分貸せるようになった。自分をあまり出せない子は、A君の自由奔放な姿に「いやだ」と拒否することができるようになった。BさんやA君の絶え間ないアクションは、なかよし学級に様々な風を吹き込んでくれる。一人ひとり違いながら、支援の中で繋がり合って生きているなかよしの子どもたちに、私の力量も試されている。

自分たちが食べるものを教材にすることで、興味を持って取り組むことができました。また、授業後に給食、たよりを通じて保護者に活動の様子をお知らせしました。

わかる授業

「生きる力」を

教育随想

意欲をはぐくむ話し合い

諏訪小学校校長 山下 道夫

先日、五年生が林間学校のグループ決めをしていました。私は、かねてより学級活動を中心とする学級経営を強調してまいりましたので、興味を持って見守りました。

豊かな人間関係を築く上で、「話し合い」の果たす役割は大きいと思います。子どもたちは、この話し合いを通して、相互理解を図るとともに集団の合意を形成したり、活動への意欲を触発されたりします。

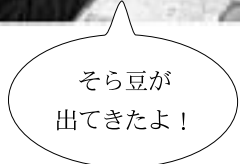
そして、集団での活動を改善したり、向上させたりします。一方、子どもたちの意欲を削いだり、まとまりを阻害したりすることもあります。

子どもの意欲を高め、豊かな人間関係を築くために、次のことを重点として話し合いの指導をしていきたいものです。

話し合いでは、まず、課題を明確にすることが大切です。話し合うことが分からなければ、考えようもありません。

④ 個別指導の取組
本校では、小学部から高等部まで、全員一緒にランチルームで給食を食べています。給食の時間は本校の児童生徒にとって重要な学習の時間です。偏食の改善、正しい箸の持ち方や食器の持ち方、摂食方法など、担任、PT（理学療法士）、歯科医、養護教諭と連携して、児童生徒一人ひとりに応じた指導を行っています。

また、肥満傾向のある児童生徒に対して、保護者と面談を行い、学校と家庭が連携して肥満の改善に努めています。



次に、よく聴く姿勢を身につけさせます。話し合いは、聴き合いであるとも言えますが、相手の考えに共感しながら聴くことで、お互いの信頼関係も生まれます。よく聴いたら「つなぎの発言」を大事にすることです。「〇〇さんの考えに付け加えて」などの言葉を添えることにより、話し合いにつながりと深まりが生じます。

集団で物事を決めるには、「自分もよく、みんなもよい」という決定を目指させることが重要です。



成果

① 献立表を工夫し、朝の会で献立発表を行うことで、楽しみや喜びを表現する児童生徒が増え、食に関する興味関心が高まった。

② 給食集会を通じて、おいしい給食を食べてもらいたいという調理員の気持ちが児童生徒や教職員に伝わり、感謝の心が育った。

③ 栄養教諭とTTで食に関する授業を行うことで、健康管理に関わる学習や給食を生きた教材として活用した学習を取り入れることができた。

また、保護者に活動の様子を知らせ、家庭と連携して食生活の改善を図れた。

④ 個別指導によって、スプーンや箸を正しく使える児童が増え、食べ方が改善されることにより、偏食の改善も見られた。また、肥満指導によって肥満度が減少した児童生徒がいたり、減少には至らなかった生徒もいた。

まとめ

本校の児童生徒にとって食育は生きる力のはぐくみに繋がると考えます。「社会に出

たとき、食事の時間に職場の同僚とコミュニケーションを取る力」、「心身の健康のための食に関する知識や習慣」などを身につけることは、児童生徒が生活していく上で必要な力です。

今後も、特別支援学校の十二年間の一貫した教育を生かし、学校全体で児童生徒の生きる力を最大限に伸ばせるよう、食に関する指導の充実に努めていきたいと思えます。

指導・講習

富士見特別支援学校校長 益子甲寿
本校では、給食の時間は授業の一つとしてとらえています。食に興味を持ち、楽しく豊かな食事をすることは、学校生活の基本でもあります。子どもたちは、生き生きと顔を輝かせながら、朝、事務室に献立表を取りにきます。子どもたちは学校給食をとっても楽しみにしています。学級の朝の会では、一日の時間の流れの中でその日の献立の発表を行っています。個に応じた食育の成果であると感じています。食育を通して、今後さらに自然の恵みと働く人への感謝の心が深まることを期待します。

生きる力をはぐくむ

東中学校 部活動指導員 早川真吾

私は平成十九年より野球部の部活動指導員をさせて頂いております。学校の部活動として強く意識をして指導していることの中から「生きる力」にかかわる内容となりますと次の二点になります。

他のスポーツもそうですが、野球にも色々な規則があります。試合中もそのルールを守ることが前提となつて、お互いに安全に競い合うことが可能となります。しかし、勝ちにこだわり過ぎる余りにラフ

なプレーに走る、ルール外れてしまうような行為を行う、これは絶対に戒められるべきです。規則を無視した先に勝利は無く、何も得られるものはありません。社会に出て当然のように規則があり、それを遵守することの大切さを野球を通して学んで欲しいと思っております。

もう一つはとにかく自分とことん考えることです。またチームにかかわることは自分たちで考え抜くことです。技術的なスランプに陥った場合、何故今までできていたことができなくなってしまったのか？自分で考え、試し、乗



り越えられたときの自信は指導をされて解消した場合とは比べものになりません。チーム内でのトラブルも自分たちで考え、行動をし、乗り越えていく！まだまだ不器用な中学生たちで必ずしもよい結論に辿り着くとは限りませんが、自分で、自分たちで答えを導き出したということが尊いのだと、社会に出たときも困難に際して立ち向かっていける人間になれるよう、今後も野球を通して生徒たちと接していきたいと思えます。

水谷小学校6年

井上 舞

私は最初、グループのみんなと相談して小豆運びのお店に行きました。2年生の子が「とれない。」と苦戦していたので一緒にやっけてあげました。1年生から5年生までみんな楽しそうで何だか嬉しくなりました。その後、交代の時間になり、私たちが店番になりました。

わんぱくまつり

した。私はルールをお客さんに説明する担当でした。みんな熱心に聞いてくれ、「あと10点」とか「がんばれ」と盛り上がってくれました。私もつい心の中で応援してしまいました。あと5分で終わりの放送が流れました。みんなが楽しいと言ってくれたわんぱく祭り。私は、今年は終わるのが早いな、と思いました。



六歳・九歳・十二歳を見通して

勝瀬小学校保護者 羽石 貴裕

子どもは六歳から不安と期待を抱えながら学校生活が始まります。

四月の『出逢い』は、子どもはクラスから、親は保護者会や懇談会から始まります。このスタートラインから、子どもと担任の先生と親の信頼関係を築く『力』を求められます。

では、三年後の九歳を想像してみます。「十歳」を境に

子どもが変化するとよく言われます。子どもたちの行動範囲が広くなり、友達グループも変わり『出逢い』や『力』も上手になり、社会的規範も身につけてきます。しかし、その『出逢い』と『力』はよくない行動をとっているかもしれないかもしれません。

さらに三年後の十二歳を見通してみます。先生のこと、友達のこと、勉強のこと、ど

教育課題特集

生きる力を



家庭教育

楽しい時間

水谷東小学校保護者 菅原 みゆき



我が家には、考え方や生活もまったく違う三人の子どもがいます。姉を叱るときは一言で済みますが、妹は二言、弟になると三言と増えてしまっています。きちんとしつけができていないだろうか、この叱り方でいいのだろうかと不安に思うときがあります。

日頃、三人には手伝いをたくさんやらせています。手伝いをやることで学べることや

役に立つことがあると思うからです。手伝いの中でも毎日やらなければならぬのが、犬の散歩です。朝と夕方、当番制で行きます。行きたくない日もあるのだから、毎日がんばって来ています。散歩のおかげで早起きになり、軽い運動にもなり、ごはんもおいしく食べられて、一石二鳥です。私も一緒に行き、たくさん話をします。学校での

ことや悩みごと、部活で大変だったこと。気にいらなかったこと。いろいろな気もちを私にぶつけてきます。家で話をするよりも、会話がはずみ楽しい時間なのです。

子どもたちに「ありがとう」を言いなさい。あいさつは大切だ。相手のことを考えなさい。」と口うるさい私も、散歩中は、小言を控えめにして、楽しい会話をたくさんするようになっていっています。子どもたちの気持ちをしつかり受け止める、話ができる時間を大切に、日々成長していく子どもたちを見守っていききたいです。

のような学校生活を送っているのだからといった「将来の夢」から親の期待する子ども像をつくってしまいがちです。親は体の成長は測れますが、心の成長は測ってみることができません。

私たち大人は、見えるものには気をとめても、見えないものには無頓着になりがちです。子どもが育つていく過程で影響を与えるのは家庭、だけではないはず。子どもたちにどのような健全やかな成長が必要なのか、子どもたちの心がどんなふう



育っているのか、親だけではなく先生と地域の人々が共に考え、手をつないでいくことが、今、強く求められています。

きらきらした一日になるために

南畑小学校応援団コーディネーター 秋元 節子

私は、息子がお世話になった小学校が好きで、今でもよく足を運んでいる。ある日、校長先生から「校庭のタイヤの遊具が古くなってしまつて……。」と相談があり、「学校応援団でやりましょう。」と返事をした。

たくさんの人とのつながりが生まれる。子どもたちへの思いが地域をつなげていく。子どもたちが、たくさん地域のの人に出会い、見守ってもらいながら大きくなり、いつか、この地域で育つてよかったと思ってくれたらとても嬉しい。

まず、近所の自動車会社に電話。知り合いにも声をかけてみると、すぐ三十個ほどのタイヤを調達してくれた。そして、三十個分のタイヤを運ぶために、元町会長がトラックを出してくれることになった。それから塗装業をしている保護者に電話。「どの位のペ

今日一日が、きらきらした楽しい一日だったら、きっと明日が楽しみになる。学校応援団は、そのお手伝いをした

ンキが必要か」と塗るときは留意点などを相談。誰に相談したときも、その返事の口調に、子どもたちへの愛情がこもっていることが感じられ嬉しかった。タイヤを埋めかえ、子どもたちと色ぬりをしたらできあがる。馬とびができるように並んだタイヤに、子どもたちがどんな模様を描くのか楽しみだ。

ちよつとしたきつかけから



学校 TODAY

特集

学校自慢

針ヶ谷小

富士見台中

今回の『学校 TODAY』は『学校自慢』です。

「開校以来、百年を超えました。」「新しい近代的な施設です。」「生徒が部活動に熱心です。」「上級生が下級生の面倒をよく見ることです。」など、さまざまに「自慢」が出てきそうです。

小・中学校に一人の児童生徒が生活する期間は、六年間か三年間ですし、職員も長く七十年程度です。常に人は入れ替わっているわけです。しかし、施設だけでなく、いろいろな取り組み、活動が変容をしながらも連続として続いています。そういう流れ、歴史の中で、それぞれの学校には「大きな自慢」から「小さな自慢」まで幾多の「自慢」があると思います。



針小まつり

色別のチームで決めたテーマによって、どんな店を出すかグループで計画をたてます。準備から当日の仕事、他の店をまわる事まで縦割りグループで行います。あっという間に2時間が過ぎました。



全校遠足

水子貝塚公園まで、縦割りの班で行きます。6年生が1・2年生のリュックを持ってくれたり、手を引いてくれたりしながら歩きます。現地に着くと、オリエンテーリングです。ここでも頼もしい6年生の姿がありました。



文化活動発表会－吹奏楽部の発表－

運動部の大会のように文化部が活動の成果を披露できる場として、校内で文化活動発表会を催しています。7月に吹奏楽部の発表、9月初めに他の文化部の作品と夏休みに制作した技術家庭・美術等の作品を展示しました。



朝のあいさつ運動

本校では、生徒会を中心に「おもいやり推進運動」に取り組んでいます。相手をおもいやる事は、まずはあいさつから始まるという思いから、学年委員会では毎朝昇降口であいさつ運動を行っています。

市教育相談研究室より

教育相談Q&A

Q 中二の一人娘ですが、食事とテレビ以外は自室にいることが多い、家族の一員としての意識が足りません。よその人には親切ですが、家の手伝いや家族への思いやりがありません。

A 現代の家庭には、この種の問題が多くなったようです。本来は、小さいうちから役割を与えられ、親と一緒に家事をすることを通して、家族の一員として認められ、家族の中でなくてはならない存在に育つのが理想でしょう。

しかし、すでに青年期であるお子さんの場合は、折に触れて、家族とは何か、責任や役割など、子どもが将来、家庭を作るときに心得ていなければならないことを話してみ、納得できるようにであれば、家の中での仕事を与え、しつ



すくすくタイムで体力UP!

毎月2回のすくすくタイムでは、児童の体力向上に向けて、様々な取り組みをしています。1学期は、ブリッチャパービー運動、かえる倒立など、家庭でもできる体力を高める運動の仕方をみんなで学習しました。



たてわりで遊ぶエンジョイタイム

毎月第2と第4火曜日の朝をエンジョイタイムとし、6年生をリーダーとするたてわりグループで1年生から6年生までが仲よく遊んでいます。たてのつながりを深め、豊かな人間関係づくりをめざしています。

諏訪小



みずほハッピーワールド

1～6年の異年齢集団での縦割り活動です。各グループで「科学」「水」「くらやみ」などをテーマにお店を準備し、みんな楽しそうに活動しました。



指導者を招いた校内研究

今年度、第1回目の算数授業研究を行いました。4年生の「 $465 \div 3$ 」の計算の方法や成り立ちについて先生方が真剣に討論しました。指導者の先生からは、「できる子」から「わかる子」にすることが大切であることを指導いただきました。

みずほ台小



1年生校外学習

日本科学未来館に行ってきました。科学コミュニケーターとの対話を通して、調べ学習をしながら「情報活用能力」を養い、生徒自身が情報発信することにより、「プレゼンテーション能力」の向上を目指しました。



P T A との合同資源回収

毎年恒例となりました。本校ではP T A主催による資源回収に全ての部活動が参加して、親子との触れ合いも大切にしながら実施しています。奉仕活動に参加する思いやりの心が欠けている今、とても有意義な行事です。

本郷中

かりとやってくれたら、褒めて感謝しましょう。

そして、子どもの感想や意見も尊重しながら、一緒に家庭の運営を考える関係になれるよう心掛けてみてください。

また、お子さんは、人に親切な一面をお持ちのようですから、外で他人のために働いてみる経験をさせてもよいですね。家族が子どもの問題に手を焼くときは、社会の力を借りてみるのはよい方法です。

そして、何といっても、一緒に食事をする時間を大切にし、楽しく会話できる雰囲気づくりを心掛けましょう。そうすれば、自然と子どもは心を開き、分かち合う喜びを知り、家族の楽しさに気付くものと思います。



教育委員会だより

○平成22年度全国大会出場者

〈第40回 全日本中学校バレーボール選手権大会〉

西中学校	バレーボール部	ベスト16	
久保 友宏	吉野 優作	羽生 和也	
堅道 幸紀	小森田裕貴	高橋 良太	
宇佐美研人	仲野 秀斗	久保 祐平	
泉田 悠汰	日野 航	中島 哲平	

〈第37回 全日本中学校陸上競技選手権大会〉

勝瀬中学校 陸上部
三田 真也
400M競走 53秒10・・・予選1組8位

○平成22年度関東大会出場者

〈第45回 関東中学校バレーボール大会〉

西中学校	バレーボール部	3位	
久保 友宏	吉野 優作	羽生 和也	
堅道 幸紀	小森田裕貴	高橋 良太	
宇佐美研人	仲野 秀斗	久保 祐平	
泉田 悠汰	日野 航	中島 哲平	

東中学校	バレーボール部	ベスト16	
松井 大和	岡本 幸大	関根 進伍	
沖田 智侑	白石 敬亮	寺島 幸宏	
小山田周平	菅沢 史行	小野拳太郎	
野々村千尋	村越 亮介	長根 幹	



勝瀬中 (陸上)



西中 (バレーボール)



四月八日に入学式があったと思つたら、あつという間に一学期が終了してしまいました。

入学式の日、期待に胸を膨らませ、登校してきた関沢小

ちと同じ教員一年生だったからです。私も子どもたちもすべてのことが初めてで、どうなるかと不安でした。しかし、一学期を終えた今、その不安はどこへいったのでしょうか。

がしたくてしたくて仕方ない様子が見られました。そして学級に響く元気な声に、私自身多くの力をもらいました。音楽の宿題も三回のところを十五回もやった子どももい

て、どれほど心待ちにしていたのかと驚きました。授業中答えが分かった時は、背すじをピンツとさせ、私をさしてといわんばかりに、皆、目をキラキラさせていました。何でも一生懸命に取り組む姿は、とても素敵でした。

子どもたちは、二学期もまた、いろいろな顔をみせてくれることでしょう。子どもたちの笑顔や毎朝の元気いっばいの挨拶に支えられながら、私も教師としての力をつけ、一緒に成長していきたいと思


学校。「友達は、できるかな」「お勉強はちゃんとできるかな」など、不安もたくさんあったと思います。その気持ちは、痛いほどよく分かりました。なぜなら、私も子どもたち

私もみんなも明るく、とても元気に一学期を過ごすことができました。

一学期の初めは、生活中心の指導が続く中、どの子も初めての学習に大喜びで、勉強

せんせい、できたよ！

関沢小学校教諭 鎌田 千穂



サッカーのワールドカップはスペインの優勝で幕を閉じました。開幕前は日本チームの不調や南アフリカの治安の悪さなどが喧伝され、盛り上がりには欠けるのではと懸念されてきました。ふたを開けてみると日本チームの好調さとサッカー本来の面白さに、眠れない一ヶ月が過ぎました。皆さんも仕事に手が付かなかつたのではないのでしょうか。最後にはタコの予想が完全的中し、パウロ君の安否を心配する声まで出る始末でした。

編集日記

さて、前置きが長くなりましたが、ワールドカップ開幕前に新聞で岡田監督の対談が特集されていました。その中に岡田監督のこんな発言がありました。『Jリーグの監督をやっているとき、クラブのユース出身者には共通点があった。全力を出し切れず、淡々とやる。：ダッシュもちょっと手前で手を抜く。負けて悔しい、もう一回やり直したいという反骨心、バイタリティーみたいなものがない。サッカーは上手いし、センスもあるけど、そういう子が多かつた』以下次号続く：(保坂)